

1年 進路講演会

12月17日（木）、1年生を対象とした進路講演会が行われました。現在、様々な分野で活躍されている卒業生の方々の講演に、生徒の皆さんも熱心に耳を傾けていました。こうした先輩方の協力が得られるのも戸山高校のよき伝統ではないでしょうか。終了後も多くの生徒が質問にきていました。



（講演者の皆さん）



1 山田 耕太朗 氏（平成13年卒）

財務省大臣官房秘書課兼文書課課長補佐



東京大学教養学部卒業後、財務省入省。様々な部署を経験し、現在の部署に至る。戸山時代は、剣道部の主将として統率力や忍耐力を、戸山祭でチームワークや自己実現を、文理にとらわれない授業で広い視野と考える力を楽しく学んだ。財務省の仕事の幅は広く、戸山で学んだことは全て今に生きている。自分は国を動かすこの仕事に誇りを持っている。皆さんも高い志を持って未来を担って欲しい。

2 中小路 徹 氏（昭和61年卒）

朝日新聞スポーツ局編集委員



京都大学文学部卒業後、朝日新聞社に入社。高校、大学とサッカー部にいたこともあり、主にスポーツ局でサッカーを担当してきた。新聞記者の魅力は、特ダネそして弱者の視点に立つこと。しかし、そのためには自らの視点で取材し、自らの責任で発信しなければならない。まず、やりたいことを見つける。そして自分なりの学習スタイルを確立し、自らの考えをきちんと発信する力をつけてほしい。

3 澤村 治道 氏（昭和50年卒）

NEC エナジーデバイス（株） 代表取締役社長



東京大学工学部精密機械工学科卒業後、日本電気株式会社（NEC）に入社。平成25年から現職。59歳の今、ライフスタイルとセットになったテクノロジー（ネイチャーテクノロジー）の考え方に立って持続可能な社会の実現に取り組んでいきたい。成功した人は皆、成功するまであきらめなかったという。成し遂げたいことを持ち続けよう。高校時代の友人は貴重でやがて大切な存在になる。

4 村井 章子 氏（昭和48年卒）

翻訳家



上智大学文学部フランス文学科卒業後、三井物産に入社。1984年、実務翻訳家として独立。産業翻訳を中心に活躍。2001年より出版翻訳に移行して現在に至る。翻訳はfreelanceの仕事。いい仕事をすれば、仕事がくる実力主義の世界。目の前の仕事を全力でやってきた。それによって次が開ける。少し背伸びしても今目の前にあることに全力で取り組んで欲しい。きっと自分の力が見えてくる。